



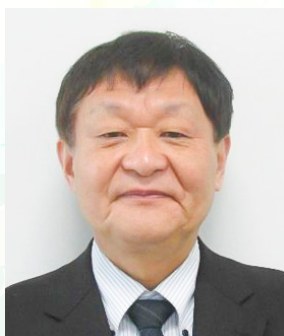
沖縄高専だより

National Institute of Technology, Okinawa College



目次

1. 校長より	2	11. 3年生クラスの様子・活動紹介	14
2. 副校長の紹介	3-4	12. 学生会より	15
3. 1年担任からの挨拶	5	13. 高専祭実行委員より	16
4. 2年担任からの挨拶	6	14. 寮生会より	17
5. 3年担任からの挨拶	7	15. 航空技術者プログラムの紹介	18
6. 4年・5年担任からの挨拶	8	16. 観光・地域共生デザインコースの紹介	19
7. 専攻科の紹介	9	17. キャリア教育センター活動紹介	20
8. 課外活動・コンテストについて	10-11	18. 卒業生の活躍の様子	21-22
9. 1年生クラス紹介・入学してからの感想	12	19. 後学期行事予定表	23
10. 2年生クラスの様子・活動紹介	13		



沖縄工業高等専門学校

すずき こうじ
校長 鈴木 康司

本年度4月1日に第6代校長として着任いたしました鈴木康司です。前任は愛媛県の新浜高専で3年間校長を拝命し、今回配置換えとなり沖縄にまいりました。とは言っても大学・大学院は琉球大学で学びましたので41年ぶりに沖縄に戻ってきたということになります。大学入学当時はまだ人と車の交通方法が右左逆でそれを入れ替える「730」という沖縄の一大イベントも経験しました。ここに再移住をして一番強く感じたのは沖縄が大発展を遂げたということでしょう。町は大きく発展し新しい道路もたくさん作られて、かつて自分が住んでいた周辺でさえほとんど面影もなく、まさに浦島太郎状態です。

さて4月に沖縄高専の新たなメンバーとして加わりました新入生・編入生・転入生・留学生、合わせて202名の皆さん、ご入学おめでとうございます。教職員、そして在校生も代表しまして「ようこそ沖縄高専へ！」我々一同新しい友を迎えることは大きな喜びであり、心から歓迎いたします。

本高専は、5年間の教育において「人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与する」を教育理念としています。高専は、国公立と私立を合わせても全国に58校、15歳で進学した生徒の約1%しか在籍をしていません。高専は大学、短大と同じ高等教育機関として扱われ、皆さんは高校生のような「生徒」ではなく「学生」と呼ばれる身分となったのです。では同じ15歳でも「学生」と「生徒」は何が違うのでしょうか。「自分で考え自分で行動できる」ようになることを高く求められるのが一番の違いでしょう。ですから校則なども高校と比べるとあまり細かいところまでは決めてなく、自由度が高くなっています。

でも勉強をしないという自由はありません。皆さんは新しい知識、技術を習得するために高専を受験して高い倍率を乗り越えて合格を勝ち取ったのです。勉強をしないということは、残念ながら不合格となった多くの受験生に対しても失礼です。また本校は国立であり学校運営には多くの交付金が支給されています。特に就学支援金が出ている多くの低学年生1人に対して年間約150万円もの税金が交付金として賄われており、納税者である国民の期待も裏切ることになります。それでも国は優秀な技術者、研究者を育てるために先行投資をしているということは、それだけ皆さんへの期待が大きいということです。10年後、20年後には日本の技術を支え世界を牽引できる人材となるように、私も期待しています。

私は4月に沖縄高専に来たということでは皆さんと同じ新入生だと思っています。よって私も沖縄での新しい人との出会いを大切にしていきます。そして私はこれまで皆さんの3～4倍もの人生を経験してきました。大学院を修了し、民間企業で14年間勤めてから高専の教員になりました。ノーベル賞を受賞された北里大学の北村先生の研究室や、外国の研究所へも長期留学をさせていただきました。その中で出会いは大変に貴重なものとなって、今の私を支えてくれています。私も学生の皆さん方とも機会があればぜひお話などを聞かせて頂きたいし、相談があれば体験談（失敗ばかりでしたが）も交えてお話をさせて頂ければと思っています。

最後になってしまいましたが、沖縄高専は新しい教育・研究コース「観光・地域共生デザインコース」や「沖縄次世代人材育成事業」など次世代沖縄高専発展のための改革を推進中です。私も今度は沖縄に恩返しのため、これら改革に向かって日夜邁進してまいります。当分の間は玉手箱を開けている時間もなさそうです。

副校長の紹介



副校長
(教育改革担当)
まきし おさむ
眞喜志 治

よくよく考えてみると
なぜか『副』コレクター

自身のすべきことを合理的に決めなければならない教育改革担当として、時間や場所を問わずいろいろなことを考えてきましたが、いざ実行に移そうとすると、障害が多いことに改めて気づかされました（一番の障害はあの人）。そんなとき、たまたま目にしたアニメの主人公の「自分しか見えていないから自分が見えない」というセリフにすごい共感を覚えました（このセリフの真意を理解できる人は一緒に焼肉食べに行きましょう。割り勘で）。「どう共感したのか」については、実行できていないことと併せてメモに残し、この学校を去るまで胸に秘めて過ごしたいと思います。



副校長
(教務・入試担当)
やまだ ちかとし
山田 親稔

好きなアーティスト
ケアリイ・レイシェル

高専の学びは、積み重ねが非常に重要です。一つひとつの授業や実験・実習を疎かにせず、日々の学習を大切にしてください。また、課題やテストへの準備は計画的に行い、「直前になって焦る」ということがないように、自己管理能力を養いましょう。高専では技術者としての基礎力と共に、問題解決能力やチームでの協働力も求められます。友人と助け合いながら学ぶこと、自分の意見を持ち、同時に相手の意見に耳を傾けることを心がけましょう。



副校長
(学生・キャリア支援担当)
かみさと しほこ
神里 志穂子

最近一番感動したこと
九州・沖縄高専体育大会
バスケットボール競技
(沖縄高専 対 有明高専の
試合)



副校長（学生・キャリア支援）を担当させて頂いて、4年目に入りました。学生主事をする以前は、広報センター長として、沖縄高専の一番の応援団として、沖縄高専と一緒に頑張りたい仲間（学生達や保護者の皆様）を増やしてきました。今は、沖縄高専の学生達を応援して下さるたくさんの方々に感謝しながら、それぞれの学生が成長できる環境創りに取り組んでいます。学生達が将来社会に出て、自らの力で様々な課題を克服し、素晴らしい社会を創造していく事を楽しみに、私も学生達と一緒に成長できるように頑張ります！これからも沖縄高専の応援どうぞよろしくお願いします。



副校長
(寮務担当)
あさと けんたろう
安里 健太郎

好きな映画
コンタクト
(原作を読んだことはありません…)

専門分野（制御工学）の関連で、人工知能を授業で教えたり研究で作ったりしていますが、近年の進展は驚異的ですね…。立場によって印象は異なるかもしれませんが、「学びへの向き合い方」を真剣に考えないと過酷な時代が来ていると個人的には思います。

専門知識に安易にアクセスできてしまう人工知能がレポートや試験の問題を解いてくれるなら、もうそんなことを学ぶのは重要でない、と考えてる人もいると思います。人工知能は、現時点ですでに高度な専門的能力をも有していると考えてよいと思いますが、皆さんはその能力を引き出せますか？

そのためには本質的な学びの中で得た知見が必要であること、まず認識することが大事だと思います。



副校長
(研究・産学連携担当)
たにふじ しょういち
谷藤 正一

📍研究室的な楽しかった思い出
泊まりがけのキャンプ！
(外で作って食べる料理は最高♪)

沖縄高専に赴任して12年目になりました。まさか、副校長になる日が来ようとは...

学生の皆さんは普段聞いたことない担当でしょうから少し説明すると、学生や教職員の研究活動を支援しながら、研究を通じた教育および企業や他の教育機関、行政機関との産学官連携活動を通じた教育を推進していくことを担当しています。高専生活の中で、研究や様々な課題解決の機会を持てるように陰ながらサポートしていきます。社会の発展に寄与する実践的・創造的技術者を目指してください！



副校長
(国際交流担当)
た な か ひろし
田中 博

📍好きな言葉
マイペンライ (ไม่เป็นไร)

タイで生活していてよく耳にした言葉に「マイペンライ」があります。「だいじょうぶ、もんだいないよ」の意味で理解されます。でも、実際に現地で、現地の皆さんと、現地人になりきって生活していると、言葉の正確な意味というより、その言葉を使う人の気持ちが伝わってきました。それは「やさしさ」だったり「思いやり」だったり、時に「信頼」とも。日本の外でも中でも、“現地人になりきる”ことの価値と力を学びました。



副校長
(総務担当)
かめい こうじ
亀井 耕治

📍最近の懸案事項
「2025年問題」(「団塊の世代」が75歳以上となる...というほうではなく、ビデオテープの再生や保存が難しくなるという「2025年問題」)

時代は、昭和・平成・令和と過ぎて行き、2025年の今年(令和7年)を、『昭和100年』、2026年の来年(令和8年)を『昭和100周年』という見方をされている方もいらっしゃいます。現在、日本国民の約3割が平成以降の生まれなんだそうです。自分も国家公務員として採用されて36年、沖縄に赴任して3回目の夏となりました。時の流れは、いつも早いものです。

明治100周年は、1968年(昭和43年)でした。時の佐藤栄作政権は、1万人規模での明治100年記念式典、歴史民俗博物館の建設や記念森林公園(国営武蔵丘陵森林公園)の整備など、さまざまな祝賀事業が行われました。私の地元である千葉県にも、前述の国立歴史民俗博物館(佐倉市)に加え、「明治百年記念展望塔」という展望台が東京湾の突端、富津岬の最先端に作られました。一方で、明治以降の日本の近代国民国家形成が、琉球処分(「琉球併合」)や沖縄戦など沖縄の苦難の原点となったことも、決して忘れてはいけないことだと思います。

大正100周年は、2012年(平成24年)だったにもかかわらず、政府は特に何もなかったと記憶しています。これは、前年(2011年)に起きた東日本大震災を受けて特に何もなかったのだと推察します。明治150周年(2018年)も、何か行われたようですが、明治という時代があまりにも遠い存在となったせいなのか、もはや祝賀の意味すら良くわからないまま過ぎて行ったような気がします。

来年の昭和100周年では、何が行われるのでしょうか。今からワクワクしています。

1年担任からの挨拶



よし い けいすけ
1年1組担任 吉居 啓輔

最近困惑したこと

七夕の短冊に「吉居先生が鳥になれますように」と書かれていたこと

1年1組担任の吉居です。1年1組のクラスの担任になるのは今年が初めてです。毎年1年1組は、大人しく静かで優等生という伝統があります。ランダムに集めた集団に毎年繰り返す同様の性質が見られるのは不思議なことです。

先日、高専祭のクラス出し物を決めた時には、第三希望に「マグロの解体ショー」がランクインするなど、例年の1組の伝統にはないような自由な発想に「おや?」と違和感を覚え、中間試験の結果を見て、今年の目標を「勉強面はともかく、楽しいクラスにする!」に微修正しました。そのため、私の担当する基礎数学Ⅰの平均点が、4クラス中3番だったことも全く気にしていません。

ほんの少し前に入学式が終わった気がしますが、後1か月で前期が終わります。楽しい時間はあっという間に流れていくようです。学生達には1年1組の仲間と、楽しい思い出を沢山作って欲しいと思っています。



きむら かずお
1年3組担任 木村 和雄

似てると言われた芸能人

成田三樹夫(ただし院生時代、そして彼よりはるかに長生きしてしまいました…)

今年度は1年3組を担当しております、木村和雄です。前年は学校のありようをえらく悲観的に書いてしまいましたが、今年は少し風向きが変わったこともあり、反省してポジティブに行きます。

相変わらず頼りない担任とは裏腹に、今年も活きの良い学生たちが集まってくれました。最初の中間試験では平均90点でも上位には入れず、特に機械システム工学科の面々は過去10年以上無かったほど見事なスタートダッシュを決めてくれました。順調な学生はこのまま油断せず、出遅れた学生も挽回し、共に成長してくれることを願っています。高専祭へも動き出していますが、準備や後始末のことも読みながら出し物を決めていく様子に、世相の反映も感じます。人間関係や公共性、倫理観に関しては課題がありそうなものの、各自の個性を「互いに」尊重しつつ、どんなチームワークを見せてくれるのか楽しみなところです。ポテンシャルの高い面々が規範的に動いてくれれば社会は明るくなるはず、その担い手として大いに期待しています。



かたやま あゆこ
1年2組担任 片山 鮎子

最近のマイブーム

気に入った小説や映画に出てくる料理を作る

1年2組担任の片山鮎子です。専門は国語学で、とくに戦国時代の漢文訓読に現れる表現を調査しています。最近では武田信玄の弟の武田信繁が書いた家訓を調査して、武田家が受容していた漢籍の種類と学派の系統を研究しているところです。他にも外国人の日本語教育に役立つデータベースを作る研究の手伝いもしています。

沖縄高専での1年生の科目担当は国語Ⅰです。学生の中には国語が苦手が高専に来たという人もいるそうなので、4年生までみっちり国語ⅡⅢ、文学概論、文章表現を学ぶことに驚いているかと思います。でも科学者や技術者には報告書、レポート、論文を書く技術が欠かせないので少しずつ学んでいきましょう。同時に高校や大学で学ぶ基礎的な文学系の教養も身につけてもらいます。楽しんでやっていけたらと思っているので、授業に関する要望があれば気軽に声を掛けてください。

2組は出席率がとてもよく、しっかりした印象のクラスです。すでに大学で研究発表をしたり資格を取ったりする学生もいて、今から皆さんの将来が楽しみです。



きんじょう いちこ
1年4組担任 金城 伊智子

好きな食べ物

チョコレート

1年生がとても素直なので、その素直さに触れる度に私も姿勢を正さなければ、という気持ちになっています。これまで主に3年生以上の担任、科目担当をしていた私にとって1年生の様子は新鮮で、担任をしている4組の学生達が毎朝小テストに向けて何かしらの科目の勉強をしているのを見ると、できるだけSHRを早く終わらせて勉強時間に使ってもらおうと思っています。その一方で、このクラスは1年間限定なのだと思うと学生達ともっと色々話したいという気持ちもあり、つつい話が長くなってしまう時もあります。1年生全体としては、「プログラミングⅠ」の授業で学生達が課題に真剣に取り組み、できるだけ自分の力で解決しようとしている様子を頼もしく感じています。ただ、今後授業以外でも何か困ったことが出てきた時には自分で解決しようとするだけでなく、誰かに助けてもらう力も養ってほしいと思っています。困難なことには必ずしも一人で立ち向かう必要はないし、誰かと一緒に乗り越えることができるかもしれません。困った時は、誰かを頼ってみませんか。

2年担任からの挨拶



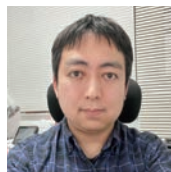
しまじり まりこ
2年1組担任 島尻 真理子

🗨️ 1日の中で一番好きな時間
お風呂上がりの、ぼーっと過ごす時間

高専に入学して1年と半年が過ぎた1組。4月頃は、1年生からかわり合いのある友達と話すことが多かったものの、授業や学級活動、休み時間などの時間を共有することで、少しずつ打ち解け、良い化学反応が起きてきたと感じています。

異なる分野（学科）、夢（将来）のベクトルが異なる仲間と、同じクラスで語ることができるこの「異種格闘技」？ともいえる沖縄高専2年1組として過ごす時間も、気がつけば折り返しとなります。

1人ひとりが講義室3-1を中心に過ごす時間を大切にしつつ、目指す夢やこれから出逢う様々なモノ・コトに向け、笑顔を忘れることなくヒトとの繋がりを大切にしつつ、それぞれがチャレンジする…そんな皆さんを、残り半年ではありますが、2年1組担任として、微力ながら応援できればと思っています（もちろん、3年生になっても、卒業しても、応援し続けます♪）。



はぎ の わたる
2年2組担任 萩野 航

🗨️ 最近のマイブーム
学校を抜け出して、
ちょうちょを捕まえに行くこと

こんにちは！生物資源工学科の萩野航です。私が沖縄高専を卒業したのが2011年、そして私が沖縄高専に教員として戻ってきたのが2018年。それからずっと生物の学科担任をしてきましたが、今年は2年2組のクラス担任を任されることになりました。

混合クラスには、学科別のクラスとは違った良さがあると思います。多様性を尊重する姿勢というか、お互いに専門が違って、異なる出自・背景をもつ人間であることを認めつつ、互に進むべき道に向かっていっているところはなるべく邪魔せず、協力してうまくやっていく。そんな様子があるような気がします。3年生以降は学科別で、良くも悪くもディープな人間関係ができていきますが、2年生のあいだは他学科の学生とコミュニケーションを取ることで経験値がアップしていく、大切な期間です。色々な人と心を通わせて、将来の糧となるような友人関係を築いていって欲しいと思います。



カーマン マコア キョイカラニ
2年3組担任

🗨️ 1日の中で一番好きな時間
お風呂上がりの、ぼーっと過ごす時間

言葉は、私たちが思っている以上に心や体に影響を与えます。「レモン」や「梅干し」という言葉を読んだだけで、自然と口の中に唾が湧いてきた人もいるかもしれません。

英語の授業でよく「英語が苦手」と言う生徒がいます。でも、それは誰と比べてのことでしょうか？比べるべき相手は「昨日の自分」です。たとえ謙遜のつもりでも、否定的な言葉を自分にかけ続けると、無意識のうちにやる気を下げってしまうかもしれません。「少しずつ上達している」と声に出すことで、前向きな気持ちが生まれ、学ぶことが楽しくなります。

夜、考え事で眠れないときも言葉の力は役立ちます。5秒吸って、5秒吐く呼吸を3回し、「今は考える時間じゃない、夢を見る時間だ。明日また考えよう。今は考える時間じゃない、夢を見る時間だ。」と心の中で繰り返してみてください。言葉には不思議な力があります。自分を元気づける言葉を、大切に使いましょう。



ひ が おさむ
2年4組担任 比嘉 修

🗨️ リラックスする瞬間
ウッドデッキで涼みながらボーッと
草刈りされた庭を眺めている時間

2年4組担任の比嘉です。昨年度より情報通信システム工学科に配属になり1年生の学科担任を務めていましたが、低学年の学科担任は正直出番もあまりなく初めて担任業務をする気分です。混合クラスの担任として普段接する機会の少ない他学科の学生も多く、手探り状態で担任業務を務めています。

クラス担任になってみて改めて混合クラスは良いなと感じています。色んな分野、色んな思考の学生がいてコミュニケーションをとっています。ただ、2年4組さんはシャイな学生が多いのか男女間の交流が少ないなあと感じています。学生の皆さんには混合クラスでの交友関係を活用してお互いの得意分野を融合し色んなことにチャレンジしてほしいなと思います。まずは高専祭準備を協力して進め、イベントを盛り上げて行きましょう。担任としてはクラスメイト同士が有意義に交流できる環境を築いて行きたいと思っています。担任としては残り半年間、教員としては卒業までの3年半よろしくお願いします。

3年担任からの挨拶



機械システム工学科 もりざわ せいいちろう 森澤 征一郎

🗨️自分を動物に例えたら
コアラ(いつそやの動物占いより)

皆さんとは1・2年の学科担任、1年の機械製図基礎学、2年の材料加工システムII(積層造形)の授業担当として接点も多く、覚えていてくれる学生も多かったのではと思います。3年になってからは担当授業がないため、週1回のホームルーム、体育祭、個人面談などを通じて、交流させてもらっています。

3年機械は、総じて『素直』と感じています。科目担当者からも授業の成績や課題に取り組む姿勢などに対して、好印象な意見を耳にします。一方で、3年から学科別クラスとなり、機械工学に関連した専門科目が増えていきます。特に、機械工学は学ぶ内容の専門性が広く大変です。その大変がゆえに、モチベーションが下がり、進路に迷いが出てくるかもしれません。そんな時は、身近なクラスメイト、保護者と話をしてみてください。話すことでいろんな意見に触れ、自身の考えを整理してもらえればと思います。担任としても、3年機械の皆さんといろいろ話をしたり、やりたいことの応援ができればと思っています。

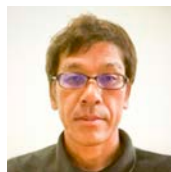


メディア情報工学科 なか ま ゆう き 仲間 祐貴

🗨️最近のマイブーム
夜にシーサイドドライブインのスープを飲むこと

メディア情報工学科3年の担任を務めて半年が経ちました。メディア情報工学科では、「コンピュータ」、「ネットワーク」、「コンテンツ」の3つの柱とした工学教育を行っております。これらの中から自分の得意分野を見極め、4年生のインターンシップ、就職・進学の見学へと繋がるような1年になって欲しいと思っています。

「モノづくり」や「コトづくり」は、複数人のチームを組んでプロジェクトを実施される時代となりました。そのため、「コミュニケーション」の能力が重要視されています。一方で、17歳、18歳の時期は、心身ともに大きく変化する時期であり、様々な課題に直面します。些細なコミュニケーションの齟齬でも人間関係を悪化させてしまい、コミュニケーションへの苦手意識が芽生え「モノづくり」や「コトづくり」の魅力を実感できなくなることを危惧しています。このような成長の時期ですので、相手を尊敬し、「言わないで良い事」、「言っても良い事」という見極めを日頃から意識して生活して欲しいと思います。保護者の皆様におかれましても、抱える悩みや不安に耳を傾け、共感し、彼(彼女)らを引き続き応援頂ければ幸いです。今後も変わらぬご支援をお願い申し上げます。



情報通信システム工学科 なかひら かつ や 中平 勝也

🗨️似てると言われる芸能人
元ジャイアンツの「松井秀喜」(若い頃)

高校生の頃所属したサッカー部のキャプテンは、いつも夢を語っていました。楽しい人でいつもはちゃめちゃでしたが、今では大企業の社長さんになってます。頑張るけど何事にもシリアスになりすぎず、いつも楽しそうにしている人は、人を惹きつけ、そういう人は成功するんだなと思います。皆さんの参考になれば嬉しいです。

さて、3年情報の学生の特徴は団結ですね。SHRから学校にしっかり来て、もし休む時もしっかり連絡をしてくれる学生がほとんどです。3年からは専門科目が多くなり、学業面でのハードルがあがりましたが、例えば実験の科目ではクラス全体が放課後に集まって教えあっている姿をよく見ます。留学生も3人いますが、クラスメートによく馴染んでいるようです。

これからの大きなイベントとして、海外研修旅行、インターン、進路決定、卒研が始まりますが、臆せず、どんどんチャレンジしてほしいと思っています。3年情報の皆さん応援してますよ！



生物資源工学科 た な か ひろ し 田中 博

🗨️「やめたい」けどやめられないこと
いつもどこでも「38歳」が還暦を迎える丙午かな

2025年4月、タイ高専からの編入生(1名)を迎え、2023年度に入学した学生たちは3年生に進級しました。混合学級に“別れ”を告げ、入学時に選択した専門学科でのスタートを切っています。5月に実施した担任面談を経て、ひとり一人の個性や強み、苦手なことだったり、挑戦してみたいことだったりを共有する中で、「個」の力と魅力、そして「3年生物」のチームメンバーとしての「個」が発展する可能性を感じました。

その3年生ですが、高専本科5年間の振り返り、これまでに蓄えた“知識の土台”をさらに大きくするとともに、知識を組み合わせることをTry&Errorするステップに上がります。このことを、まず自分(たち)で認識・理解し、自分(たち)で実践して欲しい。まっすぐ挑戦することに価値があるのが3年生で、担任・副担任は保護者と一緒にその環境づくりに取り組みます。

3年生物の基本姿勢は、1. 挨拶(Greetings)、2. 笑顔(Smiles)、3. 体力(Physical Power)です。ひとり一人がそれぞれの“個性”を発揮して影響し合い、共に挑戦できるクラスを、みんなで力と知恵を合わせて作っていきましょう。こんな私も3年担任に“進級”しました！

4年担任からの挨拶



しもしま けん
機械システム工学科 下嶋 賢

🗨️自分だけのマイルール
常に行きたい国、場所を考えるようにする。

海外の大学のインターンシップ先を開拓することです。これまでタイのキングモンクット北バンコク校へ、機械システム工学科とメディア工学科の学生をインターンシップにて派遣しました。その門戸を広げるべく活動しております。平成30年に熊本高専八代Cの先生からご紹介いただき、マレーシア工科大学に訪問し、英語科の先生、機械科の先生と会って交渉してきました。今年の令和7年にて、相互の交流協定書を締結でき、派遣の準備が完了しました。機械システム工学科の学生は渡航可能となりました。残念ながら、令和7年では期末試験の日程変更などの影響により希望者はおりませんでした。来年度以降、本学学生のインターンシップによる海外選航で、海外で暮らす、外国人と会話するという経験を学生に体験してもらいたいです。

今年、10月にブルネイ工科大学に訪問する予定です。先日オンラインミーティングにて、先方の先生と、上記のインターンシップの派遣を実現について話し合いました。内容については、おおむね了承されましたので、10月に本校学生が訪問する際の学生寮、所属研究室、聴講するであろう講義などを見学する予定です。今後に交流の文書の締結を目指します。



かめはま ひろ き
情報通信システム工学科 亀濱 博紀

🗨️「やめたい」けどやめられないこと
寝かしつけながら一緒に寝落ち
→夜中に授業準備

娘の笑顔で癒され、学生の成長に心が動かされる日々です。



きんじょう あつ し
メディア情報工学科 金城 篤史

🗨️最近気になっていること
コミュニティを維持するためには

いろいろコミュニティがあるけど、維持するのは大変だね。みなさん是非、協力を！



いけまつ しん や
生物資源工学科 池松 真也

🗨️“夢”だったこと
東京ドームでの長嶋監督とのキャッチボール

久しぶりに担任を務めてみると学生と話をすると楽しいなと思います。

5年担任からの挨拶



つむら たく や
機械システム工学科 津村 卓也

🗨️よくカラオケで歌う曲
玉置浩二の「メロディー」をよく歌います。
妻からのリクエストは米津玄師の「馬と鹿」。

講義科目を担当しておらず、機械5年の皆さんと会う機会が激減しています。とても寂しいので各種提出資料の担任押印のためだけでなく、フラッと研究室を尋ねてくれると嬉しいです。



やまだ ちかとし
情報通信システム工学科 山田 親稔

🗨️似てると言われた芸能人
有吉弘行

卒業研究や進学・就職準備が重なります。スケジュール管理を意識して動きましょう。



メディア情報工学科 タンスリヤボン スリヨン

🗨️最近のマイブーム
最近三線を始めました。頭の体操にもなり、早く沖縄の伝統的な曲を弾きたいです。

5年生の高専生活も残り少なくなりました。一日一日を大切に、勉強や友人との時間を充実させ、悔いのないよう全力で過ごしましょう。



いとう まさあき
生物資源工学科 伊東 昌章

🗨️最近のマイブーム
電子レンジのみを用いたいろいろな調理

5年生の皆さんは、卒業研究等、卒業や今後の進路に向けて何かと忙しい時期かと思います。体調を崩さないよう健康に気を付けていきましょう。

専攻科の紹介



専攻科長 谷藤 正一
たにふじ しょういち

◎今までにしたアルバイト

紅茶屋さんの店員(お客さんの好みに合わせて勝手にブレンドして大好評でしたが…
店長にバレて怒られました)

専攻科は、本科の5年間の専門基礎教育課程の上に、更に2年間の専門技術教育を行うため定員24名の少数精鋭の教育課程です。この僅か2年間の間に、本科で学んだこと以上の量と質で知識や技術を習得することになります。

本校の専攻科は、大学院修士課程を意識して組み立てられていますので、本科とのギャップに戸惑うことも多いと思います。同じ校舎、同じ先生なのに、要求されるレベルが格段に高くなり、計画性や迅速性、即応性も求められます。

まず専攻科1年生の前期では、4コース合同のPBL授業として「創造システム工学実験」が用意されています。毎年違ったテーマで、設定した課題解決のために、適切に実験計画を立て、それを遂行するばかりでなく、進捗を管理するための技術を身に付けてもらいます。総合的な学修経験を通して、創造的思考力やエンジニアリングデザイン能力に磨きをかけてください。指示待ちでは何も始まりません。これは、専攻科生の進路である大学院での研究や企業で任せられる仕事の進め方と何ら変わりありません。テーマだけに囚われずに、授業の目標が実現できるように大いに迷い悩んでください。そんな経験が、後期に用意されている「長期インターンシップ」や「グローバルインターンシップ」でも活かせることでしょう。長い場合には3カ月以上も学校を離れ、企業や海外において実社会に必要な素養や協調性を身に付けてもらいます。将来にわたるキャリアイメージを基に、技術者に要求される創造的実践性、複眼的視野を養ってください。

そして、2年生になると、学位授与機構の学修総まとめ科目として、「特別研究II」に取り組むことになります。本科を含めて、3年目の研究活動です。前期には研究計画を含めた“履修計画書”を、後期には“成果の要旨”として成果を纏めます。修了論文とは違って、ほんのA4・3ページに学修の総括を詰め込まなければなりません。課題解決のための計画を立案し、それに基づき研究を自主的に遂行できること、これまで学んだ知識を総合し、問題解決ができることが求められます。目的・目標に向かって、日々試行錯誤の繰り返しです。もちろん、研究内容を学術論文として論理的で簡潔な科学技術文章として纏めるとともに、内容を把握していない他者にも明確に説明できるプレゼンテーション能力を身に付けることも大切です。このように、深い専門知識を修得し、さらには異なる分野の知識も吸収して、融合・複合化の進んでいる産業界において、実践性・創造性を兼ね備え、複合領域にも対応できる幅広い視野を身に付けた技術者・研究者になってもらいたいものです。

高専生活の7年間で、あっという間だったと感じられるくらい集中して過ごせることを期待しています。

課外活動・コンテスト実績



九州沖縄地区高専体育大会主要実績

種目名	成績
テニス 女子団体	優勝（全国大会出場）
テニス 女子ダブルス	優勝（全国大会出場）
テニス 女子ダブルス	準優勝（全国大会出場）
テニス 女子シングルス	3位（全国大会出場）
テニス 男子団体	3位
水泳 男子 100 m背泳ぎ	2位入賞（全国大会出場）
水泳 男子 200 m背泳ぎ	4位入賞
水泳 男子 50 m自由形	7位入賞
水泳 男子 100 m自由形	7位入賞
弓道 男子団体	3位（全国大会出場）
弓道 女子団体	3位（全国大会出場）
弓道 男子個人	2位（全国大会出場）
弓道 女子個人	5位（全国大会出場）



課外活動・コンテスト実績



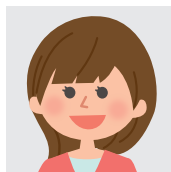
■コンテスト関係主要実績

コンテスト名	成績
第1回みどり戦略学生チャレンジ	農林水産大臣賞 チーム名：沖縄マリンレジャーレスキュー隊 (提案名：データと発酵をフル活用する循環型農業の実践)
つくば Science Edge2025	文部科学大臣賞 (提案名：災害発生時の情報通信で命をつなぐアドホック通信型防災ヘルメット)
第6回全国高等専門学校ディープラーニング コンテスト 2025 (DCON2025)	文部科学大臣賞・フソウ賞 チーム名：沖縄マリンレジャーレスキュー隊 (提案名：海難事故防止の必須アイテム RiCAS)
第2回高専起業家サミット	・ソーシャルドクター部門：最優秀賞 チーム：Bellearc ・アントレプレナー部門：優秀賞・企業賞 (Honda IGNITION 賞) チーム：ゆがふあーむ (from ミヤギ農家)
第8回 WiCON2024 (高専ワイヤレステックコンテスト 2024)	WiCON イノベーション賞 チーム名：全力疾走 (提案名：視覚障がい者の自由な移動を支援する次世代ウェアラブルデバイス 「わんだらん」)
第 13 回高専社会実装教育フォーラム 2024	・優秀社会実装賞 (2位)・沖縄 23 チーム (提案名：水中ドローンと AI を使った沖縄に住むサンゴと魚の健康調査) ・社会実装要素技術賞、Sier賞・沖縄36チーム (提案名：マイクロプラスチック問題に対する循環社会の実現に向けて ～海洋プラスチックゴミからの3D フィラメント形成技術及び海難救援グッズの製作～) ・社会実装構想賞・沖縄 04 チーム (災害発生時に命を繋ぐ!～アドホック通信機能付き防災ヘルメットの開発と実証実験～)
IT フェスタ	最優秀賞 (ロボット製作委員会)
第2回ネイチャー甲子園	生きもの調査部門：植物の部第2位
パソコン甲子園 2024	グランプリ
第3回高専防災減災コンテスト	防災科研賞
第 13 回「サイエンス in 沖縄：起業のための 研究能力 サイエンスフェア」(SCORE!)	優勝
テクノ愛アイデアコンテスト 2024	準グランプリ
第 35 回全国高等専門学校プログラミングコンテスト	特別賞・シーエーシー企業賞
第 27 回やんばる圏高校生英語スピーチコンテスト	金賞・銀賞受賞
宇宙甲子園沖縄地方大会	缶サット部門優勝



コンテスト参加の様子 (DCON2025)

1年生クラス紹介・入学してからの感想



あさと ゆき な
安里 優希奈



高専だよりをご覧の皆さんこんにちは。令和7年度1年1組の前期級長を務めています、機械システム工学科の安里優希奈です。

さて、つい先日、担任の吉居啓輔先生から、高専だよりに掲載するクラス紹介文を考える光荣な任務をいただきました。ですがあいにく文章に自信がないので、頼れる1組の仲間たちに「紹介文にいれてもいいんじゃないかな?というキーワード」についてFormsで募集しました。皆さん快く回答してくれたので、ここではそれらを紹介し、1組のクラス紹介文とさせていただきます。

「あ」「わんさか辺野古パーク トラップ大統領の後継者排出」「吉居信者」「貧富の差」「静かで優秀」「仲良く、楽しく 心はいつだって青のクラスメイトクリックを極めし優等生 エリートカリスマのディクテーター」「パワーみなぎるlover」「いい感じの変な人がたくさんいる」「可愛くキュートな吉居さん」「吉井先生はスタイルがよい」「クラス内恋愛がない」「個性しかない、担任が天性の天然」「吉井先生への歪んだ愛情がすごいクラス」「真面目に不真面目な楽しいクラス」「・全部くじびき・級長の私がいないと何も始まらない」「こういう真面目なアンケートで、級長になりすます人がいる」「顔よし!頭よし!性格よし!」「意外とみんな陽気」「他のクラスと違って治安いい」「眠気・課題・技術と戦う吉居信者」(カッコ内に含まれる表現の稚拙さ、誤字脱字などは1組の皆さんから募ったものをそのまま掲載したもので、級長であるわたくしの自我は一切含まれません。)



なかむら しん く
中村 心紅



1年2組生物資源工学科の中村心紅です。高専には、勉強できる環境、互いに高みを目指せる人がいることに期待し、入学しました。入学初日、緊張していた私たちを、先生方先輩方が温かく迎え入れてくれたのを覚えています。

高専は、90分授業であること、授業スピードが速いと聞いていたので、そこは腹をくくっていましたが、実際に授業を受けてみて、90分授業が全然苦でないことに気づきました。先生方が、わかりやすく面白い授業をしてくれるため、あっという間に終わっていました。また、先輩方が主体となって行っているイベントも充実していて、とても楽しい高専生活を送れている実感があります。

1年2組のクラスは、話しやすく優しい人が多いです。みんなで、次の授業で準備するものを共有し合い、テスト前になると、わからないところを教え合ったり、イベントごと、全員で盛り上がりたりします。お互いに協力し、助けを呼べる、助けてくれる雰囲気があるのが1年2組のいいところだと思います。

学科の印象としては、実験や実習が多く、実際に見て、触れて学べることにわくわくが止まりません。自分が選んで入った学科というもあり、最高です。また、学科別の子から話を聞くのも面白いです。



いは たいせい
伊波 大成



1年3組前期級長の伊波大成です。3組の担任は木村先生で副担任は小池先生です。初めてのロングホームルームで「高齢コンビ」と自虐ネタ出してきたり、結構学生にクラスをゆだねていたり、ゆったりした感じが話しやすい面白い先生たちです。

3組は入学したばかりの時はほんとに誰も話せない状態でしたが一緒に食事したり勉強したり遊びに行ったりする中で話せるようになっていきました。最近では寮の部屋でゲームしてめちゃくちゃ盛り上がっていたり、すごくしょうもないどうでもいい話題で笑い声が聞こえてきたりして結構個性強めで動けるいいクラスだと思っています。そんな3組でもまだあまり話すのが得意ではないメンバーもいます。できるだけそんなメンバーにも何気なく話せるようにになりたいです。

後期には高専祭などの大規模なイベントがあるので後期級長には前期で残ってしまった課題やイベントでも頑張ってもらいたいです。

高専に入学して個性強めで中学校までとは違う世界観を感じています。ですが違う部分が多すぎてちょっとびっくりしました。噂では聞いていた90分授業がとにかく長かったり、小テストですら点断すると点数を落としたりして何をやるにもまずは勉強からです。でもなんだかんだ言って楽しいところのほうが多いです。土日にカラオケ行ったり、ラウンジに集まって筋トレしたり映画みたり、なにより個人的には高専の陸上は長距離が多くて楽しいです。

「5年間このクラスでいたい!」と全員にってもらえるような学級を目指してこれまで以上に盛り上げられるように全力で引っ張っていかうので応援よろしくお願いします。



しまね みひろ
島根 美洸



一年四組の前期級長を務めております機械システム工学科の島根美洸です。私達四組は、とても優しく頼りになる担任の金城伊智子先生と、個性あふれる面白い43名の仲間とともに、明るく楽しいクラスを作っています。入学当初はクラスに馴染めるか不安で、入学式ではとても緊張していました。しかし、声をかけてくれたり、困っている時には手を差し伸べてくれる心優しい仲間恵まれました。そのおかげで今ではクラスで打ち解けることができ、友達と楽しく生活しています。

四組のメンバーは男女関係なく仲が良く真面目で、テスト前や課題提出が迫ったりすると放課後教室に残ってテスト対策をしたり、教え合いが盛んに行われ、みんなで協力しながら取り組む姿が見られます。しかしまだ全員が打ち解けているわけではなく、クラスで関わり合いの少ない人もいます。実は私は気軽に話すことが苦手で、クラス全員と深く関わっているわけではありません。だからこそ、これからの学校生活を通してお互いを深く知り合い気軽に助け合える関係を築いていきたいです。

高専は、一コマ90分、寮生活など普通高校とはかなり違っており、慣れないことがたくさんありました。さらに後期には、高専祭という大きなクラス全体でのイベントがあります。慣れないことだらけですが、楽しい気持ちを糧にこれからも明るく真面目な四組の仲間たちと共に苦楽を乗り越えていきたいです!

2年生クラスの様子・活動紹介



ふじ た たいよう
藤田 大洋



2年1組情報通信システム工学科の藤田大洋です。
2年1組は、担任の島尻真理子先生と42名の生徒で構成されているクラスです。

担任も副担任もまじめで嫌になりますが、実は生徒思いで優しい一面もあり気軽に話しかけられるような、学年問わず人気な先生です。

僕たちのクラスは全体的にシャイなクラスで、授業中やロングホームルームなどでは、ほとんど発言者がおらず静かなため、このクラスをまとめて少しでも良くしようと、僕ならできると思い級長に立候補したのですが、今のところあまりうまくいっていません。ほとんどの人が学校の行事にすら消極的で、級長としては困ってるんだぞ。そのうえ今年は後期の級長の分の仕事が前期に食い込んでくるという不幸も重なり、正直最悪です。でもこういう苦難を乗り越えることで、自分が人として成長できるのかなと思うので頑張りたいです。1組ありがとうございます。



みやざと ま み
宮里 真美



皆様こんにちは。2年2組の後期学級長を仰せつかりました、生物資源工学科の宮里真美と申します。私たち2年2組は、総勢41名の仲間とともに日々穏やかに学び合い、支え合っております。比較的静かな雰囲気のクラスではございますが、それぞれが部活動や委員会活動、趣味など多方面で才能を発揮し、個人として光り輝いております。担任の萩野先生の温かなご指導のもと、クラス全体がのびやかにまとまっております。また、体育祭のドッジボールでは惜しくも初戦敗退となりましたが、心をひとつにする機会として貴重な時間を過ごしました。現在は高専祭に向けて、ゆるやかにではございますが、着実に準備を進めております。初めての学級長という重責に不安もございましたが、温かく支えてくださる皆様のおかげで、日々励まされております。最後に、2年生も残り半年です。この半年が、2年2組の皆様にとって心豊かな日々となりますようお願いつつ、学級長として少しでもお力添えできればと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。余談ではございますが、今年度の高専祭、個人的に某Y先生と某M先生のそれぞれのクラスの催しも密かに楽しみにしております。(^▽^)



もうり はやと
毛利 隼人



2年3組級長の毛利隼人です。私たちは2年3組は全員の仲が良いクラスです。休み時間では、いろんなところから話し声が聞こえ、とても賑やかな雰囲気が流れています。授業中でも、みんなが率先して発言したり、クラスで決めごとをするときに積極的に意見を出してくれます。

そして、2年3組はなんといっても、いい意味で個性的なメンバーがそろっています。ここでは紹介しきれないぐらい個性が強いので、一緒に過ごしていて楽しいです。

また、2年3組は運動できる人がとても多いです。体育祭のドッジボール大会では、持ち前の団結力と相まって全体で4位（四捨五入したら切り捨てなので実質優勝）をとることができました。

これまで2年3組のいいところを紹介しましたが、2年3組にはこんな怖いところがあります。

それは、「けが人が多い」ということです。3組の前にはいつも松葉杖や車いすが並べられ、他のクラスの人には何かの呪いなのではと言われるほどでした。

私たちはこれから高専祭に向けて準備を進めていきます。他のクラスでは味わえないような企画を考えていますので、ご来場の際は、ぜひ2年3組にお越しください！



なが た り く
永田 琳久



私は、2年4組前期級長、情報通信システム工学科の永田琳久です。

2年4組は、全体的にシャイでクラスでの発言は少なめですが、個性豊かな42名のクラスメイトと、お茶目で面倒見の良い担任の比嘉修先生で日々楽しい学校生活を送っています。比嘉修先生は、LHRの時間になると自らクラス全員が楽しめるゲームを用意してくださる、ユーモアあふれる先生です。

そんな先生ですが、実は私、少しだけ不満に思っていることがあります。前期級長を決める際、誰も立候補しなかったため、「野球部だから」という理由だけで任命されたのです。正直その時は戸惑いと経験の少なさから、責任を果たせるか不安でした。しかし、半年間級長を務める中で、意見がなかなか出ないクラスをまとめる難しさや、責任の重さを学びました。その経験は、人として大きく成長するきっかけとなりました。これからも、2年4組のみんながさらに仲良くなり、笑顔で無事に進級できることを心から願っています。

3年生クラスの様子・活動紹介



機械システム工学科

かみさと かず や
神里 和弥

3年機械システム工学科級長の神里和弥だよ！
おもしろいクラスで欠席が少なく、明るいクラスだよ！
一蓮托生でみんな頑張ってるんだよね、多分。
天真爛漫で、活発なクラスで部活を頑張ってる人が多いんだ。
才色兼備な人が多く、毎年キュートボーイがいるんだよ。
よく笑い、よく学び、元気いっぱい！
いつも教室はにぎやかで楽しい雰囲気。
決してあきらめない心で挑戦を続ける仲間たち。
面白さと団結力ではどのクラスにも負けません！
頑張ります。



情報通信システム工学科

なか そ ね し おん
仲宗根 志音

こんにちは。情報通信システム工学科3年の仲宗根志音です。
3年情報の生徒たちは皆活発で成長意欲が高く、私も良い刺激を受けています。

時々活発すぎて真喜志先生に飽きられることもあります、
そこも含めて可愛がられている、、、はず。そんな環境の中で、
私もこれまでより積極的に挑戦する機会が増えてきました。

私は今年、リモートではありますが、友人達とある企業のインターンに参加しました。

もともと自分から挑戦することが苦手でしたが、企業説明会の際に声をかけていただいたことがきっかけで、「やってみよう」と一歩踏み出すことができました。特に印象的だったのは、マニュアル通りに動くだけでは対応できないリアルなシーンを体験したこと。状況を自分で判断し、考えて行動する力の大切さを実感し、普段の学びでも「なぜそうなのか」「どう応用できるのか」を意識するようになり、実際に企業でやっている職務を体験することで、自分の学びが社会とどうつながるのかを考え、将来について考える良い機会にもなりました。

後期には高専祭や研修旅行などの行事があり、学校全体で盛り上がる時期です。学びもイベントも一つ一つ大切にしながら、自分のペースで前向きに成長を重ねていきたいと思っています。



メディア情報工学科

こ とう み つ き
後藤 潤樹

7月に大阪・関西万博で、私自身の課題である「吃音」を支援するアプリを出展するという、またとない挑戦の機会をいただきました。

このアプリの目的は、自分の吃音の傾向や特徴を客観的に「自己理解」することです。私自身、自分の話し方を正しく知ることが、吃音者のコミュニケーションへの積極的な第一歩になると信じて開発しています。

万博の会場では、次々と訪れる方々にこの想いを伝える中で、私は「伝えることの難しさ」と、それ以上に「伝わった時の大きな喜び」を肌で感じました。説明の途中で言葉に詰まっても、多くの方が「そのアイデアは素晴らしいね」「あなたの熱意は伝わっていますよ」と、温かい言葉をかけてくださいました。

皆さんからの前向きなフィードバックが自信になりました。単なる感想ではなく、私の取り組みが人とつながり、受け入れられていると感じて、とても励まされました。

この万博でいただいた、自分一人では決して得られなかったであろう多様な視点と、あきらめずに伝えようとする心を道しるべに、これからも開発を続けていきます。この経験をゴールとせず、吃音者がもっと積極的にコミュニケーションに参加できる未来を目指し、新たなスタートとして学び続けていきたいです。



生物資源工学科

せ ど ほ の か
脊戸 萌圭

皆さんこんにちは！生物資源工学科3年の脊戸です。3年生になってもう3か月が経ち、そろそろ高専生活も振り返り地点が見えてきました。本当にあっという間ですね。一日一日を大切に過ごしていきたいものです。

3年生になると今までよりも専門的な授業が増え、1週間の半分以上が専門授業となりました。実験の授業はもちろん、化学系や情報系の授業も入ってきて頭がパンクしそうです。先輩方が、「3年生が鬼門だよ」と言っていた意味を身に染みて感じています。それに加え、高専祭や学生会に関した仕事を行っている人が多く、“自分で自分を管理する力”が必要になってきたな、と思います。将来的にも必要になる力だと思うので、今のうちに身に付けておきたいです。

今年の3年生物生は、楽しいことにまっすぐ進んでいく人が多いと思います。学校生活でのレクはもちろん、ゲームなど自分の趣味に対しても楽しい気持ち全開で向かっている印象です。それに、学生が企画したものを快諾して協力してくれる田中先生のおかげでもありますね。この文章を書いている今日も、LHRでスイカ割りをする予定です!!楽しみすぎる...

一人として同じような個性が無く、それぞれが楽しいと思うことに全力な3年生物生が集まった時、どんな化学反応が起きるのでしょうか。後期には、高専祭や研修旅行などの行事がたくさん待っています。お互いの個性を生かしながら、思い出に残る何かをみんなで作れる日が待ち遠しいです!!

学生会より



学生会会長
機械システム工学科5年
じょしゅ あ
ヒュー 叙主亜

皆様、こんにちは。

今年度で2期目となる学生会会長を務めさせていただいております、機械システム工学科5年のヒュー叙主亜と申します。頼もしい学生会幹部、そして昨年度よりも大所帯となった総勢 60 名のチームメンバーと共に、沖縄高専をより一層盛り上げるべく、日々奮闘しております。

今年度の学生会のスローガンは「挑戦し未来を創る学生会」です。これは、令和6年度の目標であった「飛躍する学生会」の精神を受け継ぎ、さらに多くのことに積極的に挑戦し、自らの手で未来を切り拓いていくという意味を込めております。これまでの学生イベント体験を超えるような、学生たちの心に残るような活動を目指しております。

しかし、学生会組織が拡大する中で、さまざまな課題も明らかになってきました。特に、大規模な組織として持続的に機能するための「組織力の強化」と「運営体制の構築」が、大きな課題として浮上しています。加えて、今年度は天候に恵まれず、体育祭は本来グラウンドでの開催を予定していたところ、雨天によりアリーナでの実施に変更となり、美ら星祭も台風の影響により屋外から室内への縮小開催を余儀なくされました。

前期にはいろいろありましたが、これらの経験を糧に、組織内部の課題解決に取り組みながら、役員たちの育成と、持続可能な組織基盤の整備に力を注いでいます。後期には、今年度で20周年を迎える沖縄高専最大のイベント「高専祭」や、恒例の「クリスマスイベント」を予定しており、高専祭実行委員会と学生会執行部が丸一となって準備を進めています。さらに3月には、沖縄高専が「全国高専交流会」の主幹校を務めるという大きな役割を担うことが決定しており、今後も気を引き締めて活動に臨んでまいります。

これまで学生会を築き上げてくださった先輩方への敬意と感謝を忘れずに、私自身、学生会長として日々学び続けながら、さらなる成長を目指してまいります。そして何より、多くの学生の皆さんが「参加して良かった」と心から思えるような活動を、これからも一つひとつ丁寧に実現していきます。教職員の皆様、保護者の皆様、そして地域の皆様の温かいご支援とご理解に、心より感謝申し上げます。今後とも、沖縄高専学生会の活動をどうぞよろしくお願いいたします。



高専祭実行委員より

みなさん、こんにちは！高専祭実行委員長の板倉睦朋（いたくら むつほ）です。

今年もこの時期がやってまいりました！第20回沖縄高専祭！

今年の高専祭のテーマは「ヒーロー」。

このテーマには、学生や来場者の皆さんの童心を取り戻して全力で高専祭を楽しみ、より明るく、楽しい世の中になってほしいという思いが込められています。

弱きを助け、強きを挫く。正義の「ヒーロー」は、私たちに勇気と希望を与えてくれます。この高専祭では、学生一人一人がそんな「ヒーロー」になって、手の込んだクラス企画やイベントをたくさん用意しています。

今年の高専祭でも、各クラスでの個性豊かなクラス企画が皆様のご来場をお待ちしています。さらに、毎年大人気のミス・ミスターコンテスト、屋台、ボディビル(?)コンテスト、そして学生によるバンドやダンス、ロボコン体験会など、盛りだくさんの内容でお届けします！

どの企画も学生たちが時間をかけて準備しておりますので、是非見に来てください！

また、今年の高専祭では、皆さんが童心に帰って楽しんで頂けるような、圧巻でダイナミックなコンセプトが目白押しです。友達や家族と一緒に、自分が「ヒーロー」になった気分で楽しんでください。

元気とユーモアがもたらす「ヒーロー」の世界で、辛いことも嫌なことも吹き飛ばし、この特別な日を一緒に過ごしましょう。皆様のご来場を心よりお待ちしております！

高専祭実行委員長 **いたくら むつほ**
板倉 睦朋



寮生会より

男子寮長より



やまだ そうすけ
山田 創介

情報通信システム工学科2年

今年度男子寮長を務めさせていただきます、2年情報通信システム工学科の山田創介です。学生寮では、みんなでワイワイ楽しく生活しています。今年度は、学生会が取り組んでいる前期中間試験前の勉強会を寮生会でも計画し、学習時間帯に先輩達が1年生に勉強を教え、寮生同士の交流を深めました。写真は、その時の様子です。

寮長を務めるにあたり、今年度は温故知新をモットーにしたいと考えています。近年、コロナウィルスの脅威が抜けきり、生活は昔のような平和が戻りました。コロナ前と後で学生寮も点呼方式が変更されたり、寮祭が失われたりと良くも悪くも約20年間受継がれた文化に変化が見られました。

また、委員会の業務の引き継ぎが乱れてしまった事により現在の寮は不安定でもあります。昔の寮のような安定した状態に立て直し、今の新しい文化にあうような変革を起こせるように、各委員会協力して実現してまいります。



女子寮長より

しんじょう しずき
新城 静月

機械システム工学科3年

今年度女子寮長を務めさせていただきます、機械システム工学科3年の新城静月です。

現在の寮生活は、未だコロナ流行時の禍根が色濃く残っています。今の寮生会の課題はいかに寮生活を正常な形に戻せるか、また以前よりどう改良できるかだと私は考えています。

しかし540名以上の集団生活ですから、慣れた習慣を急に变えることはできません。少しずつ着実に変えていけたらいいと思います。

固くなりすぎず柔軟に、良い雰囲気 of 寮づくりに努めていきます。学生寮内外の関係者の皆様、今年度も学生寮運営をよろしくお願いたします!



航空技術者プログラム紹介



まきし おさむ
眞喜志 治

航空人材育成委員会
委員長・教授

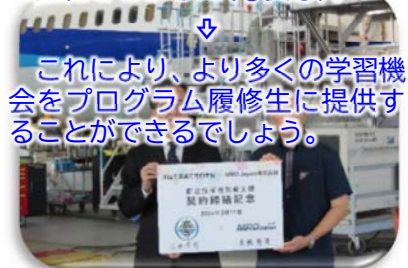
1. 命題は、勝手に膨らむ期待を如何にして抑え込むか

今年度で、本プログラムも11年目に入りました。この間、巣立っていったプログラム履修生が「一等航空整備士」（難易度高）の国家資格に合格するなど、少しずつではありますが、活躍が目立ってきています。そんな中、今年度はプログラムのリニューアル1年目となるのですが、規模の割には期待値の大きいことに悩み、何かもらえるわけでもないのに訪れた要人に気に入られるようなプレゼンを求められ、なにより、不本意のまま出戻ることになった現プログラム責任者が、次の10年を見据えて、軽く腕を振っただけで変えることのできたちょっとしたことを紹介します。



(1)新たな協力体制

プログラム当初より続いたANAとの講師派遣に関する覚書を、MRO Japan 並びにANAとの航空人材育成を中心とした多岐にわたる活動を目的とした連携協定へと進化させました(写真①)。



これにより、より多くの学習機会をプログラム履修生に提供することができるよう。

(2)新たな講師(ハイクラスな御仁)

包括的な協定を結ぶJTAから派遣された、主要なポストを務めた重鎮を含めた3名の実務経験者による、より実践的で高度な授業内容を導入しました。



これにより、エアラインにおける様々な業務の知識を得るとともに、体験することができるよう。

(3)三度目の正直(に期待)

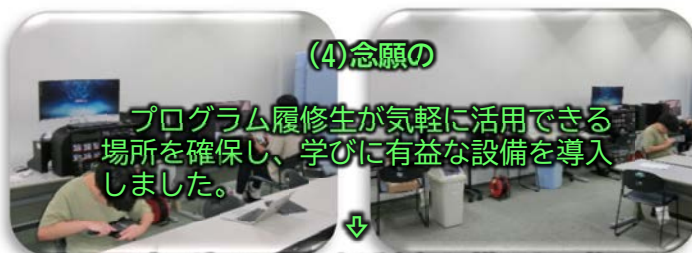
沖縄県の目指す「航空関連産業クラスター形成」の実現に向けた取り組みの一つである「おきなわ航空関連産業クラスター形成推進会」に参画し、沖縄県内における航空人材の育成に結構な意見を出せるようになりました。

本プログラムが正當に評価され、沖縄県として正しくサポートしてくれることを期待せずにはいられませんが、二度あることは三度ある、とも言いますし・・・

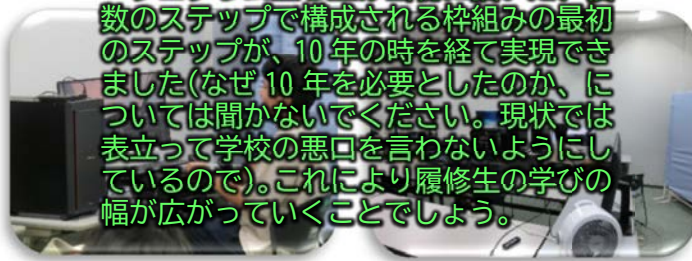


(4)念願の

プログラム履修生が気軽に活用できる場所を確保し、学びに有益な設備を導入しました。



プログラム立ち上げ当初に描いた、複数のステップで構成される枠組みの最初のステップが、10年の時を経て実現できました(なぜ10年を必要としたのか、については聞かないでください。現状では表立って学校の悪口を言わないようにしているの)。これにより履修生の学びの幅が広がっていくことでしょう。



沖縄においては、赤と青を手玉に取ることができるのは現プログラム責任者しかいないと勝手に思い込んで、今後も明るく前向きに歩んでいきたいと、軽い気持ちで考えています。

観光・地域共生デザインコースの紹介



まきし おさむ
眞喜志 治

観光・地域共生
デザインコース長・教授

1. 素直に学べば、必要なものはついてくる、はず

本コースも3年目となり、紙面のみのコース長（以下コース長）目線では、それなりに形が整ってきているように映っており、客観的に観てもそのように映ります。一方で、他の方々（コース履修生を除く）からどのように視えているのか、については気にしないようにしています。



現在、3年生（コース一期生）45名、2年生（コース二期生）61名がコースでの学びを満喫（これってコース長の感想です）しています。そのコース履修生たちはコース長のことを、『とにかく辞めたがっているだけの普通に面白い人』と思っているかもしれませんが、「八王子からの協力の押し売り」や「妨害といっている程度の内部の陰口の数々」などの苦悩と苦労の中にあることは、彼らには見えていないでしょうし、もしかすると、コースに携わっている教職員でさえ気づいていないのではないかと、思うことがあり、一人涙しています。

そんな、人知れず頑張るコース長にとって、誤算とまではいかないまでも、想定を上回る学生の成長速度と行動力には、感心ではなく圧倒されるものがあります。昨年度、現3年生は「観光DX」で、企業より提供された課題の解決に多種多様なアプローチで斜め上からのアイデアを提案するとともに、「社会実装教育フォーラム」（東京高専）に参加することで、社会実装を理解し、コンテストの実情を知り、他高専の学生との交流の意義を学んだものと思います。現2年生は、「地域共生演習Ⅰ」で津堅島（うるま市）に渡り、ビーチクリーン活動や小中学生を含む地元の方々との交流を通して、離島の現状を知り、課題を見つけ考えることの大切さを学んだものと思います。

そんな彼らに、令和6年度を振り返ってもらったアンケート結果の中で、ポジティブなものをいくつかピックアップしてみました（ネガティブなものがあったということではありません）。これを読むと、ほとんどのコース関係者が、「3年目も充実できる学びを提供しなければ」、という気持ちになったのではないかと思います。真相は如何に・・・。

すでに3年目の学びもスタートしていますが、「変わってなさそうな中にも変化がある」を裏テーマに、より良い学びの提供を目標に、頑張っていくみたいです。

現3年生の声(ポジティブ版)

- ◆ 観光コースに来てどのようにしたらどの課題が生まれるかなどに意識して考えることができるようになりました。
- ◆ 実際にその場所に行って課題を考えたりすることも大切だと思うので、これからも色々よろしくお願いします！
- ◆ 昨年度はコンテスト見学という大変貴重な経験ができました。他高専の方々との交流もあり、より視野が広がったように感じます。この経験を活かして、今年度からの活動を積極的に行っていきたいです。
- ◆ 2年間で普通ではできない体験をできたんじゃないかなって思います。
etc.

コース履修生へのアンケート結果の抜粋



現2年生の声(ポジティブ版)

- ◆ これからも身の回りの環境のことを知り生活していきたいと思った
- ◆ 楽しかったです。何もわからない状態から学びましたが、生活や学びの場で活かせる事が沢山学べたのが嬉しいです。
- ◆ 自分があまり知らないことについて調べたり意見を持ったりすることがとても楽しかったです。
- ◆ チームになって、物事に取り組むことができて、とてもいい経験になりました。今年度もよろしくお願いします。
- ◆ とても楽しい講義を受けることが出来て大満足です。
etc.



キャリア教育センター活動紹介

沖縄工業高等専門学校キャリア教育センターでは、学生の将来設計を支える総合的な教育プログラムを実施しています。当センターの使命は、進路選択の支援だけでなく、学生が自分自身を深く理解し、社会や職業世界に関する知識を身につけることで、自分の人生を自律的に設計できる能力を育成することです。



本校では1年次から専攻科2年次まで、学生の成長段階に応じたキャリア支援体制を整備しています。1年次の「沖縄高専セミナー」では高専教育の特色と学習内容への理解を深め、2年次以降の「アントレプレナーシップセミナー」では起業家精神と創造的思考力を養成します。

3年次には企業訪問を含む研修旅行により実際の社会情勢に触れる機会を設け、4年次ではインターンシップによる実務体験を通じて職業観の形成を図ります。企業の採用活動開始時期の前倒し傾向を受けて、4年次学生には自己理解促進、エントリーシート作成指導、ビジネスマナー研修、職業適性検査対策といった実用的なサポートを充実させています。

5年次においては、就職活動および進学準備に向けた本格的な個別支援を展開します。

当センターの特筆すべき取り組みの一つが、11月から1月にかけて月1回開催される大規模な業界研究会です。約180社の企業にご協力いただき、多彩な産業分野や企業文化に接する貴重な場を提供しています。今年度からは1年生から4年生まで幅広い学年の参加を予定しており、早期から職業に対するイメージを具体化し、業界や企業への理解を深めることを狙いとしています。このような規模での業界研究会は県内でも有数であり、高専教育への企業からの期待の大きさを表しています。

さらに、昨年度から卒業生のUターン就職支援という新しい施策にも着手し、地域経済の発展への貢献も目指しています。

このように沖縄工業高等専門学校キャリア教育センターは、個々の学生の成長過程に細やかに対応しながら、時代の要請に応じたサポートを提供することを基本方針としています。学生が自らの資質や関心を発見し、職業人生を能動的に構築する力を培うとともに、沖縄県の発展を支える優秀な技術者の輩出に貢献してまいります。



昨年度の業界研究会の様子

卒業生の活躍の様子

せき や ゆう た
関屋 優太 沖縄高専17期生 機械システム工学科 卒業生



こんにちは。17期機械システム工学科を卒業した関屋優太です。現在、ANAラインメンテナンス株式会社に就職して3ヶ月が経ちました。新しい環境での生活や電車通勤など、沖縄では経験しなかったことが多くありますが、少しずつその生活にも慣れてきました。

今は、航空整備士になるために必要な社内資格「G1」取得を目指し、日々訓練に励んでいます。訓練では、航空整備の基礎となる座学を学びながら、モックアップや訓練機を使った実習を通してスキルを磨いています。

私は手先が器用な方ではないため、周囲の訓練生に比べて実習の進みが遅く、審査に間に合うか不安もありますが、訓練生仲間や教官方のサポートを受けながら、少しずつではありますが確実に上達していると感じています。9月には審査が控えているので、それまでに知識も技量も十分に身につけられるよう頑張ります。

在校生の皆さん、日々レポートや試験に追われて大変な学生生活を送っていることと思います。私は高専祭に出場するために4年間ダンスを続け、ダンスメンバーとの絆を深めながら支え合い、高専生活を乗り越えることができました。高専生活はたった5年間しかありません。勉強だけでなく、友人とたくさん遊んだり、課外活動で気分転換をしたりしながら、ぜひ充実した学生生活を送ってください。

ほし そう た
星 草汰 沖縄高専15期生 情報通信システム工学科 卒業生



沖縄高専15期情報通信システム工学科を卒業した星草汰です。

私は、沖縄高専本科を卒業後、専攻科に進学し、その後KDDI本社に就職しました。KDDIは、「au」ブランドを中心とした大手通信キャリアです。現在は埼玉での新生活を始め、電車通勤をしながら、新人研修に励んでいます。新しい仲間に関われ、毎日が刺激的で、日々学びの連続です。

特に、KDDIは文系・理系の垣根を超えてチームを組むかつ、短いスパンでメンバーを入れ替えるので、知識量やコミュニケーション力の差、経験の違いを日々痛感し、「空いた口がふさがらない」思いで過ごしています。

しかし、そのメンバーの中でも自分を見失わず行動できているのは、高専の授業で身につけた情報通信の知識や、コンテストでのチームでの開発経験、そして何より、在学時に汗水たらして、「なんでこんなことやらなきゃいけねんだよ」と思いながらも、全力で取り組んだ日々が、力になっていることを確信しています。

高専在学中の皆さん、「諦めない」を忘れないでください。
悩んだり、必死に食らいついた経験が、必ず将来の自信につながります。
応援してます！

よ な みね まどか
與那嶺 円

沖縄高専15期生 生物資源工学科 卒業生



沖縄高専卒業後、私は後発医薬品メーカーに就職し、品質管理の仕事に就きました。原料や製品の成分を分析機器や薬品で検査し、安全な医薬品を届けるための試験を日々行っていました。高専で学んだ知識を現場で活かせる、やりがいのある毎日でした。

その後、転職し、現在はメディア総研株式会社という会社で営業職として働いています。高専生の採用支援を行う会社で、今度は「就職をサポートする側」として高専に関わっています。理系から営業へと進んだ私のキャリアは意外に思われるかもしれませんが、高専で培った思考力やプレゼン力、高専祭実行委員会や学生広報活動などを通して得たコミュニケーション力が、今の仕事でも生きています。

私は、高専での5年間で本当に充実していたと心から思っています。16歳～20歳という多感な時期を、個性豊かな友人や先生と過ごした高専時代は、自分の価値観を育む大切な経験でした。

今私が願うのは、たくさん的高専生が自分らしく楽しく社会で活躍をしてくれることです。そのために私も全力で応援したいと思っています。高専は、積極的に行動する人がより輝ける場所。勉強・研究・課外活動、いろいろな場面においてです。自由になんにでも挑戦できる環境だからこそ、受け身でいるのはもったいない……！

今しかできない挑戦に、ぜひ全力で取り組んでください！



ぎんじょう じゅり
金城 樹里

沖縄高専12期生 メディア情報工学科 卒業生



メディア情報工学科12期生の金城樹里です。

2015年に入学、ICT委員会で委員長なんかもしつつ、5年間めいっぱい楽しんで卒業しました。

2020年に上京しアスクール株式会社に入社、そのあと転職して、今は株式会社TwoGateで働いています。

TwoGateはファンコミュニティ特化アプリやライブイベント体験向上アプリ、チケット販売サイトなど、エンタメ領域を中心にサービスを展開している会社です。開発メンバーの8割は高専出身で、少数精鋭チームで開発・運用をしています。ライブで物販を利用したり、ファンクラブに入ったり、最近チケットを買った人は、実はもうTwoGateのサービスを使っているかも！

私は今“開発ディレクター”としてアプリの初期構築やQA、運用、クライアントと少しお話しする人をしています。あとは、高専プロコン視察や高専生・高専卒生向けハッカソンを運営したりして、充実した日々を送っています。

最後に耳タコなお話になってしまいましたが、高専時代のお友達や経験は大人になった今でも宝物です。今でもお友達と集まり、高専生のときと変わらずお散歩やお出かけしたりしています。環境は変わっても宝物は変わらないので、ずっと大切にしてくださいね。

後学期行事予定

高専祭

10月25日(土)～10月26日(日)

研修旅行

(本科3年)

12月2日(火)～12月5日(金)

冬季休講

12月29日(月)～1月4日(日)

終業式

2月6日(金)

(問合せ先)

沖縄工業高等専門学校 総務課総務係

TEL : 0980-55-4003 Mail : ssoumu@okinawa-ct.ac.jp